

古事類苑

地部三十八

橋上

橋ハ、ハシト云フ、之ヲ水上ニ架シテ、以テ人物ノ往來運搬等ニ供スルモノニシテ、木ヲ以テスルヲ普通ト爲シ、石ヲ以テスルモノ之ニ亞グ、稀ニハ綱及ビ藤葛ヲ兩岸ニ紐スモノアリ、又舟ヲ比ベテ橋ニ代フルアリ、其他之ヲ細別スレバ其種類甚ダ多シ、

本邦ニ於テ橋梁ノ設アル、遠ク神代ニ起リテ、伊弉諾、伊弉冉二尊ノ時、既ニ天浮橋ニ乘リテ天降リ給ヒシコトアリ、天孫降臨ノ頃ニハ大橋、小橋、高橋、打橋、浮橋等ノ稱アリ、又之ト相前後シテ、或ハ俵ヲ積ミ、或ハ弓ヲ横ヘ、或ハ船ヲ編ミテ以テ橋ヲ造リシコトモ古史中ニ散見セリ、推古天皇ノ朝ニ至リ、百濟ノ人芝耆麻呂歸化シテ吳橋ヲ造ル、時人大ニ其巧妙ヲ稱セリ、漢風ノ橋ヲ造ルコト是ニ始マル、

大寶ノ制、凡ソ天下ノ道橋ハ民部省ノ管スル所ニシテ、京師ハ左右京職、諸國ハ國司ノ分轄スル所タリ、之ヲ掌ル神郡ハ宮司而シテ其之ヲ修營スルニ當リテハ、京内ノ大橋及ビ宮城門前ノ橋ハ、並ニ之ヲ木工寮ニ命ジ、自餘ハ京内ノ雜徭ヲ役シテ造ラシム、諸國ニ在リテハ、毎年九月ノ交、即チ秋收ノ後ヲ待テ修理セシム、蓋シ一ハ以テ農ノ時ヲ妨ゲザランガ爲ニシテ、一ハ以テ貢調ノ便ニ備ヘンガ爲ナルベシ、

往時宇治、山崎、勢多ヲ三大橋ト稱シ、並ニ橋吏ヲ置ケリ、橋吏ハ、ハシモリト云フ、即チ橋ヲ守